

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年2月26日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770109144		
法人名	有限会社 杜の里		
事業所名	グループホーム 杜の里		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護・介護予防認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府堺市西区山田3丁1034番23		
自己評価作成日	平成23年2月26日	評価結果市町村受理日	平成23年5月23日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp/
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8号-102
訪問調査日	平成23年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の症状や状態、対応、治療等の知識を深める為に、職員は勉強会や外部研修に積極的に参加したり、他施設職員との交流を図り、ご利用者の認知症の状態に応じた専門的な介護が実践できるように取り組んでいる。医療・看護面においては、かかりつけ医や協力医療機関と連携を図り、ご利用者の体調不良時や事故等による外傷時に早期に対応し、適切な医療・看護を受けて頂けるように努めている。季節毎の行楽行事や日常の買い物等の外出援助、ご要望に応じた外食援助を行っている。菜園で実った野菜の収穫、ボランティアの方や中学生ブラスバンド部の演奏会、保育園児との交流等を通して、ご利用者にできる限り刺激のある楽しい生活を送って頂けるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

利用者が地域で暮し続けることが出来るように、中学生のブラスバンドの来訪や子供と共に七夕飾りを行ったりなど、グループホームの行事に参加を誘ったり、地域の盆踊り、カラオケ大会、清掃活動などに利用者と共に参加し、相互に協力・交流関係が築かれると共に、地域と日常的に交流を継続している。計画的に研修を実施し職員の知識を深める取り組みを行い、毎月実施されるスタッフ会議では無記名で話し合いたい内容や検討課題など記載できる用紙を会議前に準備し、提案されたことをスタッフ会議で話し合い、速やかに運営やサービスに反映させるようにしている。かかりつけ医や協力医療機関と連携を図り、適切な医療を受けることができるように支援している。また、利用者の心身の状況から利用者の身体状況の悪化も予測し受診支援を行い、利用者の健康管理を行っている。地域のごみ拾いに出かけたり、ファミリーレストランや回転ずしに外食に出かけたりと、日常的に外出する機会を持ち気分転換やストレス発散に取り組んでいる。杜の里劇団と称して、職員だけでなく利用者と共に言葉の由来となった場面を脚本化し寸劇にして行事で発表会を行い生活にメリハリと楽しみができるように取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>玄関や職員室等、誰もが目に付く場所に掲示し、職員は毎朝の申し送り時に唱和している。理念に基づいたサービスが実践できているか、職員会議でも話し合うようにしている。</p>	<p>理念は、利用者・家族・職員が見やすい位置に掲示している。地域密着型サービスになった時に、全職員で役割や意味の理解を深め地域密着型サービスとしての役割を盛り込んだ理念を作りあげている。地域密着型サービスとしての役割を盛り込んだ理念は、職員が理念を意識してケアを実践していきやすい具体的な理念となっている。理念は、利用者一人ひとりのケアを行っていく際、ケアプラン作成時など理念に立ち戻り利用者に質の高いサービスの提供ができるように取り組んでいる。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>盆踊りやカラオケ大会等の地域行事に参加したり、近隣の保育園や中学校との交流を続けている。子ども110番の登録、子供会の古紙回収、地域美化活動に参加している。</p>	<p>保育所・中学校から招待され行事に出かける交流を継続している。また、中学生のプラスバンドの来訪や子供と共に七夕飾りを行ったりなど、グループホームの行事に参加を誘い相互に協力・交流関係が築かれている。地域の盆踊り、カラオケ大会、清掃活動などに、利用者と共に参加し地域との交流を深めている。地域の広報紙から地域の情報を得ており、子供会の古紙回収や地域美化活動への参加もしている。散歩や買い物に利用者と共に地域の商店に出かけ地域と日常的に交流を継続している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>ホームの見学希望者を柔軟に受け入れ、必要に応じて、介護保険制度・サービス、認知症介護等について説明させて頂いている。西区GH連絡会で、認知症介護相談を受け付けるふれあい喫茶に取り組んでいる。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>できるだけ多くのご家族や地域の方に参加して頂けるよう、毎回ホーム便りでお知らせしたり、直接連絡を入れさせて頂いている。会議では、質疑応答の時間を設け、頂いたご意見をサービスの向上に活かせるように努めている。新しい取り組みについては必ず会議の議題に挙げ、ご意見を伺うようにしている。</p>	<p>家族、自治会会長、民生委員、地域包括支援センター職員、近隣のグループホーム管理者参加の下、奇数月に年6回実施して活動報告・事故報告を行い、意見交換を行っている。運営推進会議に出席できなかった家族には、ホーム便りで報告する他、議事録を送付し報告している。会議では、議題に沿って参加者から意見や助言をもらいサービスの質向上に活かすように取り組んでいる。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議に地域包括支援センター担当者に参加して頂いている。生活援護課担当者の方とも連絡を取り合っている。西区GH連絡会でも情報交換を行っており、堺市認知症連携担当者が出席して下さることもある。</p>	<p>運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加しており、ホームの状況を把握してもらっている。西区グループホーム連絡会で地域の事業所間の情報交換を行い、堺市の担当課職員の参加もあり市に地域の事業所全体の状況を把握してもらうように取り組み課題解決に市の担当課、地域包括支援センターの協力を得ている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>定期的な勉強会や入職時オリエンテーションで、理解、浸透を図っている。日常のケアの中で、身体拘束に当たるものがないか見極め、身体拘束しないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束をしない方針で取り組んでいる。新入職時のオリエンテーションや年間の研修計画に沿って身体拘束をしないケアへの理解と知識を深める取り組みを行っている。交通量の多い道路に面しており、玄関を出て直ぐの急坂のため玄関は施錠しているが、利用者にとって外に出たい理由を日々のケアの中で把握し利用者が満足を得ることができる外出や対応を行っている。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>定期的な勉強会や入職時オリエンテーションで学ぶ機会を持っている。身体的虐待だけではないことを職員が理解し、お互いに注意し合うよう指導し、虐待が見過ごされることがないように注意を払っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>勉強会で学ぶ機会を持っているが、活用されているケースが多くない為、必要に応じて、資料ファイルを用いながら、ご家族に説明できるようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時や改定の際には書面で示し、不安や疑問点に対する十分な説明に心がけている。契約解除に至る場合には、現状を説明して同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置し、事業所内・外の相談窓口も掲示している。ご家族の面会時には職員がご利用者の最近のご様子を伝え、ご家族が要望等を話しやすい関係作りに努めている。また、ご利用者に食事に関するアンケートを実施し、希望の把握に努めている。</p>	<p>家族の状況により面会の頻度に違いはあるが、面会時には意見や要望を言いやすい雰囲気作りを行っている。月1回の利用料金の支払いに来訪される機会には、利用者の状況を必ず伝えるようにしている。</p>	<p>家族に伝えたことを記録として残しておくことが望ましい。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>次回の職員会議で話し合いたいことや他職員の意見を聞きたいこと、提案したいこと等を自由に記入できる用紙を用意しており、必ず、その議題について話し合うようにしている。</p>	<p>スタッフ会議を毎月行っている。無記名で会議で話し合いたい内容や検討課題など記載できる用紙を会議前に準備し、提案されたことをスタッフ会議で話し合い、速やかに運営やサービスに反映させるようにしている。職員が直接管理者に申し出て意見を言うことができるように声かけを行っている。毎年の雇用契約更新時にも面談を行い、意見や提案を聴取する機会となっている。課題などがある場合には、不定期ではあるが、正社員会議を行い方針を検討し運営やサービスに反映させるように取り組んでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員との個別面談を行い、総合的な意見や悩み等の把握に努めている。直接管理者に言い難い内容であれば、主任や副主任に相談できる体制作りにも努めている。各業務内容やタイムスケジュール等は、その時々介護状況や職員の動きを把握して、働きやすいように改善・変更している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>勉強会の年間計画を立て、月1回実施している。積極的な職員には外部研修に掛かる費用を会社が負担している。研修に参加した職員は、できるだけ他職員に向けて伝達講習を行うようにしている。ヘルパー2級養成講座実習生を受け入れ、指導を通して自分達の介護の振り返りができるように取り組んでいる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>他GHでの介護実習を受け入れて頂いたり、他GH職員の介護実習の受け入れを行なっている。他GHの良い取り組みを持ち帰ったり、他GH職員からの意見を頂き、サービスの質の向上が図れるようにしている。西区GH連絡会の勉強会に職員が参加したり、堺市GH連絡会の勉強会には管理者が参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけ入居前にご利用者自身にホームの見学を勧め、雰囲気や他のご利用者の暮らしぶりを見て頂けるように援助している。見学に来られた際には、ご利用者のお話を伺い、不安や困っておられることがあれば、対応できる内容をお話している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族の介護負担、不安や混乱等について傾聴し、介護負担の軽減や不安・混乱を解消できるよう、当ホームで対応できることや利用可能な他サービスについて説明させて頂くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性に応じて優先順位を見極め、必要な支援の対応に努めている。ご希望の内容によっては、他事業所のサービスの紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症介護の理解を深める勉強会を定期的実施し、介護する側が優位に立つことがないように注意し、ご利用者と職員は共に支え合える関係が築けるように努めている。ご利用者から教えて頂く姿勢も大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時の居心地良い空間作り、手紙等での近況報告、体調変化時の電話報告、消耗品依頼等の連絡を通して、ホームに足が向いて頂けるような対応に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力の下、お正月等にご自宅に外泊されたり、親類縁者の冠婚葬祭に参加できるよう援助している。馴染みの商店街やスーパーへの買い物や地区のお祭りへの参加等も支援している。	冠婚葬祭への出席時には、利用者が参加できるように支援している。利用者より馴染みの店での買い物や祭りへの参加の希望があればできる限り行けるように支援している。出かけた際には、馴染みの方からの声かけなどがある。	新たにグループホームでの生活の中でできた人間関係を継続できるよう支援されることが望ましい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者は他者の障害については理解しにくい場合が多く、ご自分の思い込みで決めつけてしまわれることがある為、職員が調整役となり説明できる範囲でお話し、お互いが共に生活する仲間として支え合えるようサポートしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容	
22		<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約終了後でも相談があれば電話等して頂いてよいこととお話している。入院された場合等には、必要に応じて情報を提供したり、ご家族に近況伺いの葉書を出す等している。</p>	/	/	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	<p>○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ご利用者が思いや希望等を表出できる場を設けたり、日頃の会話の中での思いや悩み事等が聞かれた時には個別記録に残し、職員が共有できるようにしている。意志疎通が困難なご利用者の場合は、ご家族等から情報を頂きながらご本人の立場になって検討するようにしている。</p>	<p>自分で思いや意向を伝えることができる方には、話をよく聞くように努めている。また、日々関わる中で聞かれた話の中から思いや意向を聞きとり、職員間で思いや意向について共有するために「気づきノート」を作成している。思いや意向を訴えることがしにくい方には、表情や行動などから利用者の立場になり、思いや希望・意向を把握するように努めている。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>認知症介護研究・研修東京センター方式の一部を活用し、生活歴や経過等の把握に努めている。サービスご利用後は信頼関係を築きながら、ご利用者やご家族から徐々に情報収集している。</p>	/	/	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝・夕の申し送りや個別記録から現状を把握し、ご利用者一人ひとりの一日の過ごし方の希望を探るようにしている。心身の状態や有する力に変化があった時には個別記録や職員連絡ノートに記載しているが、職員の把握能力には差がある。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議で、ご利用者のニーズや希望を確認し、解決策について職員が意見を出し合い、介護計画の作成に反映している。ご家族には面会に来られた際に、介護計画に対する希望や意見を聞かせて頂くようにしている。計画作成後は、毎月の職員会議で見直ししている。	地域密着型サービス計画書に利用者・家族の意向や希望をしっかりと把握し、課題に沿って具体的な支援内容を記載し実践している。計画書は、コピーを介護記録にもファイルしており、職員は計画を意識しケアを行うことができている。毎月1回会議の席で利用者に変化がないか確認し、必要な場合は見直しを行っている。3カ月に1回モニタリングを実施し、施設介護経過記録には、計画作成担当者が計画の実施状況などを確認し記載している。介護記録には、日々の利用者の様子や状況、訴えなど短文でわかりやすい記録となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の現状が把握しやすい記録記載方法について学び、誰にでも分かり易い記録にするよう取り組んでおり、その中から、ケアの実践や介護計画の見直しのヒントを得ている。職員の記録記載・情報収集能力には差がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看護師を中心に医療機関と連携を図り、人工透析や食事・水分療法を要する方の援助を行っている。ご要望に応じて、受診介助やご自宅への送迎、買い物代行等を援助している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他事業所の訪問リハビリテーション、ヘルパーサービス、福祉用具購入・レンタル等の活用を支援している。地域ボランティアの方にも訪問して頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に内科・歯科のかかりつけ医や救急搬送病院に関する希望を確認し、ホームの協力医療機関以外でも、入居前からの医療が継続できるよう支援している。ご利用者の心身の状態に応じ、必要な診察・検査・治療を受けられる専門病院・科への受診も援助している。	利用者・家族の希望するかかりつけ医に受診可能であるが、家族での受診支援の協力を依頼している。協力医療機関以外の受診科が必要な場合には、適切な医療を受けることができるように支援している。利用者の心身の状況から利用者の身体状況の悪化も予測し受診支援を行い、利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとれた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	介護職員は、ご利用者の病状の小さな変化でも積極的に看護師に相談・報告している。看護師はかかりつけ医と連携を図りながら健康・服薬管理や適切な処置を行い、介護職員の指導に当たっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院された際には、電話連絡やご利用者のお見舞いの時等に、担当看護師や相談員との情報交換に努め、ホームで対応可能な状態で早く退院できるように働きかけている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取りの指針の中で、ホームで対応可能な内容を明示し、入居時に同意を得ている。これまで実例はないが、終末期ケアの勉強会を行ったり外部研修に参加して知識を深め、実践に備えている。</p>	<p>看取りの指針を作成しており、グループホームでできること、できないことを明確にし契約時より指針に沿って説明を行い同意を得ている。現在まで終末期ケアの希望がないが、研修を行い、知識と理解を深め全職員で統一した方針で取り組めるように努力している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事故発生時の対応マニュアルを作成し、入職時に説明すると共に必要に応じて見直している。日頃から看護師が中心となり、ご利用者の救急時の対応について指導し、ほぼ全ての職員が初期対応できるようになっている。救急救命士による救命講習にも参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>様々な発生場所を想定した年2回の消防訓練、年1回の防災訓練を実施し、非常持出袋も常備している。新人職員には、防災の心得や対策、消防用設備の取り扱いについて、防火管理者が直接指導している。</p>	<p>年2回の消防訓練を昼夜・出火場所も想定で実施している。また、さまざまな災害を想定しての避難誘導訓練も消防訓練とは別に年1回実施している。消防訓練では、利用者も参加し避難している。災害訓練では、自室の部屋から出てフロアで待機、非常持ち出し袋の設置場所など検討し、非常災害時に対応できるように訓練している。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>ご利用者一人ひとりに合わせた対応に努めている。日常のケアの中で気になる対応については職員会議で話し合い、各業務始業前に、言葉かけに配慮する意識を持つよう職員間で促し合っている。</p>	<p>利用者が聞かれて嫌、見られて嫌と思われることがプライバシーと考え、職員同士でケアのその場で注意し合うほか、研修や職員会議で話し合いを行い、尊厳やプライバシーを損ねることのないようなケアを意識している。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>職員が一方向的に決めてしまうことのないよう選択肢を用意したり、思いや希望を表出しやすい場面設定をする援助を行っている。ご利用者が考えたり悩んだりできる時間を十分に持てるよう、見守る姿勢に努めている。</p>	/	/

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中で可能な限り、ご利用者一人ひとりの生活リズムや主体性を尊重し、その人らしい暮らし方ができるように柔軟な対応に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性ご利用者には、行事や外出、誕生日会の際等にお化粧を勧めたり、好みの服装ができるように援助している。男性ご利用者には、髭剃りや整髪の声かけや援助を行っている。訪問理美容時にはご本人や職員が美容師に希望を伝え、おしゃれを楽しんで頂けるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の希望を取り入れた手作り昼食・おやつを取り組みを継続している。食事の準備から片付けまでの作業の中で、ご利用者が得意な作業に参加して頂くようにしている。ホームの畑で収穫した野菜を食材として使用し、職員も共に味わっている。	通常は食材搬入を受けているが、週2回は、利用者と共に献立・買い物調理・片付けまで行うようにしている。利用者に「食事に関するアンケート」を実施し、アンケート結果から利用者の嗜好や希望を把握し、メニューに取り入れるようにしている。食材搬入業者とは連絡内容を連絡の用紙に記載し、利用者の好みや嚙下に伴う改善などの情報のやり取りを通して美味しく食べることができるようにしている。外食の機会も持っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>ご利用者の体格や運動量、病歴等も配慮し、主治医とも相談しながら一人ひとりの状態に合った量の提供に努め、摂取量は毎日記録に残している。また、咀嚼・嚥下の状態に応じた食事形態を考慮している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後に、ご利用者の状態に合わせて声かけ・見守り・介助し、口腔ケア徹底して清潔保持に努めている。月1回訪問歯科衛生士の口腔ケア指導を受けている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個別のチェック表で排泄のパターンを掴み、その方に合った声かけ・誘導を行っている。尿意が不確かな方でも、定期的なトレイ誘導で日中の尿とりパット使用数を減らしたり、尿意がある方には、できるだけ紙パンツを着用しない援助に努めている。</p>	<p>排泄チェックを行い排泄パターンを把握し、声かけを行い排泄の自立を促している。パターン表で便秘の状況も把握しており、適宜下剤を使用しコントロールしている。できる限りトイレでの排泄ができるように支援し排泄の自立を促すだけでなく、尿便意の確立を行い下肢筋力維持にも役立てている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排便状況を観察し、便秘で下剤によるコントロールが必要な方に対しては、医師の指示の下で援助している。朝食にバナナやヨーグルトを取り入れたり、補水時に牛乳を提供する等の取り組みは続けているが、便秘予防体操等も取り入れていきたい。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴可能な時間の中で、入浴日や時間帯のできるだけ希望に添えるようにしている。入浴介助の際には、ご利用者一人ひとりのADLの状態に適した安全な方法で援助している。	利用者の希望の時間や曜日にできる限り入浴してもらえるようにしている。利用者のADLの低下により全介助が必要な場合、安全に利用者が入浴できるようにバスボードの使用や二人介助を行っている。異性の介助を嫌がられる利用者には、同性介助を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の日々の心身の状況を観察しながら、その日に体調に応じた臨機応変な対応に努めている。また、夜間に心地良く入眠できるよう、日中の活動援助にも心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前の確認作業や服薬時の見守りを確実にやり、必要な服薬が適切にできるよう援助している。個別の服薬一覧表を作成し、職員が薬の作用・副作用や注意点について理解できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の生活歴や嗜好品、持っておられる能力を把握し、役割を持って活動したり得意分野で力が発揮できるよう場面作り心がけ、張り合いのある暮らし方ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>ファミリーレストランや回転寿司等での外食援助やご家族との外出援助を行っている。また、初詣やお花見、みかん狩り等季節毎の行楽行事や、盆踊りや運動会等地域行事への参加を計画し、その際にはご家族にもお声をかけさせて頂くようにしている。</p>	<p>天気の良い日には、利用者と共にトンクを持ち地域のごみ拾いに出かけたり、ファミリーレストランや回転ずしに外食に出かけたりと、気分転換やストレス発散に取り組んでいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>管理が可能な方には自己で所持して頂いているが、お小遣い帳を作成して月1回は担当職員が残金を一緒に確認するようにしている。外食や電話をご利用された際には所持しているお金から支払って頂き、ご家族にも報告している。</p>	/	/
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話使用可能な時間帯内でご希望に応じて利用して頂いている。また、手紙等の投函をお手伝いし、大切な人との繋がりが途切れないう支援している。</p>	/	/
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングにはご利用者の作品や写真を貼ったり、季節の花を飾る等して、生活感や季節感を味わえるような空間作り心がけている。換気や湿度にも注意し、テレビ・音楽の音量や職員の声の大きさにも配慮するよう指導し、ご利用者が居心地良く過ごせるように努めている。</p>	<p>利用者と職員が何気なく交わされる言葉や笑い声が聞かれ利用者がのんびりと過ごせる雰囲気がある。共有空間からは調理の音や匂い、利用者ができる限り自分で動きやすいように配置された家具、利用者の作品や写真を壁面に貼り利用者が季節の移り変わりを感じながら居心地よく過ごせる空間となっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>独りになりたい時やご利用者同士で話をしたい時等には、思い思いの場所でご自由に過ぎて頂けるように援助している。トラブル等を予防する為に必要な見守りができる範囲内で、ご利用者のプライバシーが保てるよう配慮している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れた家具や日用品は安全面を考慮した上で、できるだけ使用して頂けるように援助し、その人らしい居室環境作りに努めている。物が多すぎると混乱される場合もある為、ご家族とも相談しながら必要な物を徐々に追加して頂く等の工夫も行っている。</p>	<p>利用者の身体状況や好みなどに配慮しながら馴染みの使い慣れた家具を配置し、安全で安心して過ごせる空間作りを行っている。自宅とのギャップを感じさせないように家族と相談し、利用者の現状に合わせた物品に調整し、利用者がその人らしく過ごせるように工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物内部はバリアフリーで、1・2階の移動には階段とEVが設置されている。飲食禁の洗剤や消毒液、台所の刃物類等が置いてある引き出しや戸棚は施錠し、ご利用者が安全に生活できる環境作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
V アウトカム項目					
56		職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○		①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○		①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59		利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○		①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況		実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
64		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○		①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない	
65		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○		①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない	
66		職員は生き活きと働けている	○		①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
67		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない	
68		職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○		①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない	